

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な人々と協働することで、急激に変化する社会に対応し、展望を持って自らの人生を切り拓き、「自分で未来に近づく」人材を育成します。

総合学科の特色を生かし、様々な学習や体験を通して、基礎学力に加えてこれからの社会で生き抜くために次の「白稜シップ」を育みます。

1. どんな時も投げ出さない、考え抜く強さをもちます。
2. ゴールに向かって、多くの人と協働します。
3. 変化を恐れず、一歩前へ踏み出します。
4. 創りだすことを楽しみます。

## 2 中期的目標

## 1 考え抜く力を育む（白稜シップ1）

- ・生きて働く「知識・技能」の定着を図り、生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む。
- ・間違いを恐れず、生徒が自らの課題を見つけたり、考え学びを深めたりできるように主体的・対話的で深い学びを推進する。
- ・学校設定科目「リーディングスキル基礎」「同 応用」を通して、すべての学習の基礎となる「読んでわかる力・聞いてわかる力・見てわかる力」を育む。
- ・研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通して教員の授業力向上を図る。

## 2 人と協働する力を育む（白稜シップ2）

- ・社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取り組みを進める。
- ・ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取り組みにより、生徒の自尊感情を育む。
- ・「産業社会と人間」やLHR、総合的な探求の授業での学びや体験を通して「他者への思いやり」ができる社会人としての基礎力を身につけさせる。

## 3 踏み出す力を育む（白稜シップ3）

- ・「産業社会と人間」の授業をスタートに、科目選択や3年間のキャリア教育、体系的な進路指導を通じて、生徒が自ら目標を設定し、その達成に向けて行動する力を育む。結果として進路決定率を保持する。
- ・外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について積極的に考える意識を育てる。
- ・インターンシップや職場見学を充実させ、生徒の進路実現を促進する。
- ・学校設定科目などを通じ、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育てる。

## 4 創造する力を育む（白稜シップ4）

- ・「産業社会と人間」、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間、課題研究などを基幹とし、すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やしていく。
- ・身につけた知識や情報を生かして、企画・制作・発表などを行い、学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む。
- ・清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める。

## 5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり

- ・生徒の実態把握に努め、関係者間で情報を共有することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
- ・外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。「わたしカフェ」の取り組みを継続させる。
- ・SC、SSW等の専門人材、福祉等の関係機関との連携を深め、「社会とのかかわり」という視点も持ちつつ、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。

## 6 学校の運営体制

- ・カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを確立させる。
- ・「大阪府教員等研修計画」を活用し、研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続する。
- ・本校の特色や状況に応じた長時間勤務の縮減に向けた取り組みや、時間や健康の管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。
- ・より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。

## \*令和3年度目標

- ・進路決定率を全国平均以上（H30 泉尾高校 94%）
- ・学校教育自己診断における「白稜シップ」の肯定率平均を75%以上（H30「考え抜く」52.9%、「協働」60.4%、「チャレンジ」56.8%、「創りだす」54.2%）
- ・就職1次内定率75%以上で、就職内定率100%を維持（H30 泉尾高校 1次内定率94%、内定率100%）
- ・医療、保育、福祉系への進学者及び就職者数35人（H30 泉尾高校 4人）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
生徒、保護者については、「泉尾」と「大正白稜」両校の質問項目も異なるため、分けて実施。教職員は、全教職員統一で実施。 【学習指導等】	【第1回7/25開催】 ・大阪府の定員割れの状況が知りたい？ 3年連続して定員割れの状況は、条例により再編整備の対象となる。公立の強みは、生

<p>・「わかる授業」「生徒が自ら取り組む授業」の実現に向け、グループワークやアクティブラーニング等に積極的に取り組んだ。「わかる授業づくり」についての肯定的な回答が、教員向けで 81.4%であるのに対し、生徒向けでは 70.3%であった。目標値には到達もこの差をできる限り少なくすることが今後の課題。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導室、進路指導室への常駐教員を配置、居場所カフェ開所による相談支援体制の構築など生徒との面談に積極的に取り組んだ。「担任以外にも気軽に相談できる教職員がいる」と回答した生徒は 65.5%。教育相談の重要性を全教職員で再確認し、生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境をより一層強化する必要がある。</li> <li>キャリア教育の充実に対する肯定率が当初目標を達成（83.7%）。教員間で情報共有できる体制が整いつつあるものの更なる組織強化が必要と感じる。保護者の回答も 88.7%と高水準の回答を得ており、進路保障の充実に向けて全教職員が積極的に取り組んでいる成果。</li> <li>学校と家庭の連携について、学校情報の提供に関しての保護者の肯定的回答が 79.4%。積極的なブログ更新や毎週配信のまちコミメールへの登録が浸透していると認識。本年度より公式ツイッターも開始。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動について、「情報の共有」については、81.4%と高い数値を示しており校内での ICT ツールを利用した円滑な業務遂行環境が整いつつある一方で、「教職員での日常的な話し合い」の肯定的回答率 53.5%と教職員の多種多様な授業準備時間を確保せねばならず、空き時間の確保が大きな課題と認識。時間外勤務時間は、昨年度から 20%程度減少。</li> </ul>	<p>徒 1 人あたりの教員数が手厚い。魅力発信が課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少し昔は、怖いというイメージ。最近の取組みは改善のイメージが強い。中長期的に取り組むことが重要と認識。</li> <li>・リーディングスキルの取組みは、方向性として間違っていない。</li> <li>・業務改善に向けて、多くの先生がいろんなことに取組む姿勢を多く感じられる。会議における紙使用削減に取り組む先生や自ら学校を変えていこうという前向きに取り組む先生が数年前と比べて非常に多い。</li> <li>・「できたことノート」はとても素晴らしい。定着化が今後の課題。</li> <li>・HP を積極的に活用し、学校の PR に努める。</li> </ul> <p>【第 2 回 11/25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革について、どのような対応ができるのか？ 職員会議の回数の見直しや部活動においては、複数顧問制にすることで負担軽減につながる。</li> <li>・公式ツイッターについてフォロワー数と更新頻度？ フォロワー数 133 名、更新頻度は原則毎日。</li> <li>・指定校推薦の大学数は？ 30 校程度</li> <li>・将来的に文化祭を 2 日間実施する理由？ 内容の充実に伴い、様々な活動の場を生徒に提供していきたい。</li> <li>・就職、進学生徒の割合はどうか？ 年度ごとに傾向がさまざま。今年度は 7 割近い生徒が就職を希望。</li> <li>・スクールカウンセラーの利用状況 3 年生の活用が多い。各学年 3~4 名の生徒が利用し、約 30 分の面談を実施。</li> </ul> <p>【第 3 回 2/17】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケートの「あてはまらない」項目が重要</li> <li>・アンケートにおけるマイナスを消す努力しても良い</li> <li>・部活動の加入率とアルバイトの関係について学校は把握すべきである。</li> <li>・土曜日での発表大会はどんな形で実施するのか 文化祭と抱き合わせで実施し、地域の中学生等に向けて発表予定</li> <li>・高等教育機関との連携について、いくつかの大学名が出たが、特定の大学に限定しているのか 限定はしていない。お声掛けいただいた大学と進めているのが現状（委員より）大阪商業大学を紹介したい</li> <li>・広報の手段は、現在、どのような現状か 土曜日を中心に学校説明会や個別相談会を実施し、空き時間で中学校訪問を実施</li> <li>・生徒の学校へのイメージと学校が求める生徒像にズレがあるのでは？ ホームページ等でうまく発信していきたい</li> <li>・不登校の生徒が多様化しているので、様々な対応をされているのは評価できる</li> <li>・保護者は高校のことをあまり知らないで、今の実態を発信すべき</li> <li>・総合学科として、中長期的に考えていく必要がある。特に、部活動等において斬新な発想が必要であろう。</li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	進捗状況
1 考え抜く力を育む	(1) 学習活動の充実	(1) ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせる主体的、対話的で深い学びの推進。 イ. 朝活動と連携しながら、「リーディングスキル基礎」の授業を通して、読解力を育む。	(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 75%以上（泉尾 H29：69% H30：75%）	ア、生徒向け肯定率 77.3%（ ）
	(2) わかる授業、充実した授業づくり	(2) ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。 イ. 校内や他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。 ウ. 授業見学週間を設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。	(2) アイウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率 65%以上（泉尾 H29：52% H30：68%）  1 生徒向け学校教育自己診断で、「授業や行事を通して、今までよりも粘り強く考えるようになった」（白稜シップ1）の肯定率を 55%以上とする（H30 52%）	ア、 ・授業アンケートの分析を各教員が行った イ、ウ ・授業見学週間の拡充 10月29日～11月1日 ・管理職による授業観察 ・リーディングスキル研究授業実施（府教委来校） 11月8日（市教委研修指定） ・授業理解肯定率 70.3%（ ） 1 白稜シップ1 63.1%（ ）

<p>2 人と協働する力を育む</p>	<p>社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成</p>	<p>ア. 「産業社会と人間」、総合的学習の時間、総合的探求の時間、特別活動などを通じて、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む。</p> <p>イ. より多くの生徒に、地域清掃を体験させることで、社会の一員である事を自覚させ、自尊感情を育成する。</p> <p>ウ. 文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を 65%以上 (H29: 65% H30: 66%)</p> <p>イ. 清掃活動に参加する生徒の率を 50%以上 (H29: 50% H30: 50%)</p> <p>ウ. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率 70%以上を維持する (H29: 63% H30: 70%)</p> <p>2 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事では、目標に向かって、人と協力することがたくさんある」(白稜シップ2)の肯定率を 65%以上とする (H30: 60%)</p>	<p>ア 「人権」肯定率 75.9% ( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権 HR 実施</li> <li>命の大切さ・デートDV・いじめ問題・共生社会の未来</li> </ul> <p>イ、ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クワーク参加率 71.9% ( )</li> <li>・体育祭 5/31・文化祭 11/2 の充実</li> <li>・生徒会通信の発行 (毎月 1 回)</li> </ul> <p>生徒会活動について直接問う問題を今回から削除のため回答なし</p> <p>2 白稜シップ2 72.7% ( )</p>
<p>3 踏み出す力を育む</p>	<p>学びを人生や社会に生かそうとするキャリア教育の充実</p>	<p>ア. 様々な学習や、2、3年次の科目選択、それに向けたガイダンスを通して、自らの目標を設定し、その実現に向けた取組みを進める</p> <p>イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。また資格取得にも積極的に取り組む。</p> <p>ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みを充実させる。</p> <p>エ. 部活動の加入率を上げる。</p>	<p>アイウ 生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を 70%以上 (泉尾 H29: 73% H30: 69%)</p> <p>エ. 部活動加入率を 30%以上 (H29: 28% H30: 30%)</p> <p>3 生徒向け学校教育自己診断で「先生は、新しいことや少し難しいこと、苦手なことなどのチャレンジすることを応援してくれる」(白稜シップ3)の肯定率を 60%以上とする (H30: 56.8%)</p>	<p>ア、「進路」肯定率 83.7% ( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアコンタクトとの連携</li> <li>・NPO 団体、大正区内企業との連携</li> <li>・外部講師・卒業生による進路に関する学習を行った</li> </ul> <p>エ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率 約 30% (横ばい) ( )</li> </ul> <p>3 白稜シップ3 肯定率 69.3% ( )</p>
<p>4 創造する力を育む</p>	<p>(1) 学習活動における発表機会の充実</p> <p>(2) 地域との交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア. アクティブラーニングを推進し、授業における生徒の発表機会を充実させる。</p> <p>イ. 「産業社会と人間」「総合的学習の時間」「総合的探求の時間」などでは、ディベートや発表会を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。</p> <p>(2)</p> <p>ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 60%以上 (泉尾 H29: 52% H30: 69%)</p> <p>(2)</p> <p>年間 5 回以上の交流機会を設けることができたか。</p> <p>4 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」(白稜シップ4)の肯定率 55%以上をめざす (H30: 54%)</p>	<p>アイ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業はわかりやすいように工夫」肯定率 77.5% ( )</li> <li>・「授業では発表やグループ活動など取り組みの工夫」肯定率 77.3% ( )</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア、( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりフェスタ 24 時間 TV</li> <li>大正区インターンシップ 幼稚園体験</li> <li>インターンシップ 受入れ (YMCA) 小中学校向け RS 公開授業</li> </ul> <p>4 白稜シップ4 肯定率 57.2% ( )</p>

## 府立大正白稜高等学校

5 安心・安全な学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	<p>ア. 生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。</p> <p>イ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。</p> <p>ウ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 60%以上 (泉尾 H29 : 59 % H30 : 60%)</p>	<p>ア、「生徒相談」肯定率 65.5% ( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題早期発見のための「わたしがI」の実施(昼休み・放課後)</li> <li>・教育相談委員会、人権教育委員会、いじめ対策防止委員会の等の教育支援体制の確立</li> </ul> <p>イ、ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との情報交換</li> <li>・中学校教員との連携</li> <li>・支援が必要な生徒への支援体制の構築など</li> </ul>
5 学校の運営体制	(1) 学校改革の推進	<p>ア. 計画的な教職員研修の実施</p> <p>イ. 学年が連携した学校運営</p> <p>ウ. 「働き方改革」に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動のガイドラインに沿った取り組みを進める。</p> <p>エ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実</p> <p>オ. ホームページ、学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる</p> <p>カ. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれによりPTA活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>ア. 年間5回以上の職員研修を実施できたか</p> <p>イ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率 60%以上 (泉尾 H29 : 63 % H30 : 57%)</p> <p>ウ. 学校閉庁日、定時退庁日の設定。部活動ガイドラインの徹底。</p> <p>エ. 1年間に3件以上改善できたか</p> <p>オ. 定期的に更新できたか</p> <p>カ. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数の増加 5%以上(泉尾 H29 : 376 名 泉尾・大正白稜 H30 : 415 名)</p>	<p>ア ( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策 5/10</li> <li>・AED 講習 7/3</li> <li>・教育相談 9/4 (進路支援)</li> <li>・人権 10/2 (共生の未来)</li> <li>・授業づくり 10/26 (研究授業)</li> <li>・授業づくり 2/5 (公開研究授業)</li> </ul> <p>イ 学年間連携 53.5% ( )</p> <p>ウ 時間外勤務時間平均前年度より 20%減 ( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動ガイドライン制定済み</li> <li>・学年主任会議の定例化</li> <li>・学校閉庁日(夏季・冬季)</li> <li>・職員会議回数削減(月 2 1)</li> </ul> <p>エ ・泉尾高校記念室整備、廊下補修等 ( )</p> <p>オ・学校行事等の「カ」更新(学年行事等を学年主体で更新を行った)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式Twitterの更新(校長Twitterで、日々の生徒たちの生活などについて発信を行った)</li> <li>・生徒会通信の発行(月 1 回)( )</li> </ul> <p>カ ( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭来校者 214 (昨年 211)</li> <li>・文化祭来校者 160 (昨年 174)</li> </ul>